



2024年「世界宣教の日」教皇メッセージ
「出て、だれでも婚宴に連れてきなさい」（マタイ 22・9 参照）

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

今年の世界宣教の日のテーマには、福音書から婚宴のたとえ話（マタイ 22・1-14 参照）を選びました。招かれた者たちが招待を断ると、物語の主人公である王は家来たちにいいます。「町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れてきなさい」（9 節）。鍵となるこの一節を、たとえ話とイエスの生涯という文脈で考えてみると、福音宣教のいくつかの重要な側面——シノドスの旅の最終段階にある現在、キリストの宣教する弟子であるわたしたち全員にとって、目下集中的に話題となっていること——が照らされます。今回のシノドスは、「交わり、参加、宣教」というテーマのもと、教会をその最優先課題である、現代世界における福音宣教に向けて再始動させなければならないとするものです。

1. 「出て、連れてきなさい」—— 疲れを知らずに出向き、主の宴に招くものである宣教王の家来たちへの命令の冒頭に、宣教の核心を表す二つの動詞、「出て」と「連れてくる」——「招きなさい」の意味——が登場します。

前者については、前もって家来たちは、招こうとする者たちに王のことばを伝えるべく遣わされたこと（3-4 節参照）を思い出さなければなりません。ここから、宣教とは、全人類のもとへと疲れを知らずに出向き、神との出会いと交わりに招くことだと教えられます。疲れを知らずに——。愛に満ち、いつくしみ豊かな神は、つねに一人ひとりのもとへと出向き、その人が無関心であろうとも拒絶しようとも、み国の幸福に招いておられます。同じく、よい羊飼いであり、御父から遣わされたかたであるイエス・キリストは、イスラエルの民の失われた羊を探しに出掛け、いちばん遠くにいる羊のもとにまで行き着くために、さらに遠くへ出掛けたいと望んでおられたのです（ヨハネ 10・16 参照）。このかたは、ご自分の復活の前も後も弟子たちに「行きなさい」と命じ、ご自分の宣教に彼らを引き入れました（ルカ 10・3、マルコ 16・15 参照）。だからこそ教会は、主から受けた使命を忠実に果たすために、境界線をことごとく越えて進み続け、困難や障害に直面しても疲れを知らずに、落胆することなく、何度でも出掛けていくのです。

この機会に、宣教者の皆さんに感謝したいと思います。キリストの呼びかけにこたえ、祖国を離れ遠くへ行き、福音をまだ受け取っていない人々、あるいは、受け取ったばかりの人たちのもとに届けるため、すべてと決別したかたがたです。親愛なる皆さん。皆さんの惜しみない献身は、イエスが弟子たちに託された、諸国民への宣教という責務の具体的な表出で

す。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください」（マタイ 28・19）。ですから地の果てまで福音化する働きのために、新たな多くの宣教者の召命を求めて、神に祈り、感謝し続けましょう。

ですから忘れてはなりません。すべてのキリスト者は、どんな環境においても、福音について自分に固有のあかしをもって、この全世界への宣教に加わるよう求められています。それは、教会全体でもって、主であり師であるかたとともに、今日の世界の「町の大通り」にたえず出ていくためです。そうです。「今日の教会の悲劇は、イエスは扉を内側からたたき続けているのに、わたしたちがイエスを外に出ないようにしていることです。主が来られたのは宣教のためで、わたしたちが宣教者となることを望んでいるのに、主を『わがもの』として引き留め、出て行かないようにする……、そうした教会となってしまうことばかりです」（教皇フランシスコ「教皇庁いのち・信徒・家庭省主催会議——司牧者と信徒の協働（2023年2月18日）——参加者へのあいさつ」）。洗礼を受けたわたしたち皆が、それぞれの立場にに応じて、キリスト教の黎明期のように、新たな宣教運動を始めるため再出発する覚悟をもつことができますように。

たとえ話の中の、家来たちに対する王の命令に話を戻すと、出向くことは、声をかけること、より正確に言えば招くことと一緒になっています。「さあ、婚宴においでください」（マタイ 22・4）というようにです。このことは、神から託された使命にある、もう一つの重要な側面を示唆します。想像に難くないことですが、使者を務めたこの家来たちは、王の招きを大急ぎで、けれども深い敬意と慎みをもって伝えました。同じように、すべての造られたものに福音をのべ伝えるという宣教には、必然的に、そこで告げられているかたと同じ姿勢がなければなりません。「死んで復活したイエス・キリストにおいて現される、救いをもたらす神の愛の美」（使徒的勧告『福音の喜び』36）を世に告げ知らせるとき、宣教する弟子たちはそれを、自身にもたらされた聖霊の実である、喜び、寛容、親切（ガラテヤ 5・22 参照）をもって行うのです。押しつけず、無理強いせず、改宗を強要せず、神の流儀、神のなさり方の映しとして、必ず寄り添いの心、思いやり、優しさをもって宣教するのです。

2. 婚宴に——キリストと教会の宣教にある、終末的視点とエウカリスチアの視点

このたとえ話の中で、王は家来たちに、息子の婚宴への招待状を届けるよう命じています。この婚宴は終わりの日の宴の映しであり、救い主、神の御子、イエスの到来によってすでに実現している神の国での、最終的な救いのイメージです。イエスはわたしたちに豊かないのちを与えてくださったかたです（ヨハネ 10・10 参照）。それは、神が「死を永久に滅ぼしてくださる」ときの、「よい肉と古い酒」（イザヤ 25・6-8）が豪華に並んだ食卓によって象徴されるものです。

キリストの使命は、その宣教の初めにご自身が告げたように、時の充満とつながっています。「時は満ち、神の国は近づいた」（マルコ 1・15）。だからキリストの弟子たちは、師であり主であるかたと同じその使命を受け継ぐよう招かれています。これに関しては、第二バチカン公会議の、教会の宣教の務めがもつ終末的特徴についての教えを思い起こしてみましょう。「宣教活動の期間は、主の最初の到来と、……二度目の来臨までの間である。ということは、主が来られるまでに、あらゆる民に福音がのべ伝えられなければならない」（『教会の宣教活動に関する教令』9）。

わたしたちは、初代教会のキリスト者の宣教熱には、終末的な側面が色濃いことを知っています。彼らは福音を告げ知らせることに切迫感をもっていました。現代においても、この視点を覚えておくことは大切です。それが、「主は近くにおられる」と知る人の喜びと、神

の国でわたしたち皆がキリストとともにあずかる婚宴という目的地に向かう人の希望とを携え、福音宣教する助けとなるからです。こうして、世が消費主義、利己的な幸福、蓄財、個人主義といったさまざまな「婚宴」を示す中で、福音はすべての人を、神との、そして人間相互の交わりにおいて、喜び、分かち合い、正義、友愛が支配する、神の宴へと招いています。

キリストからのたまものである、このようないのちの充満は、教会が主に命じられ、主を記念して祝う聖体の宴に先取りされています。ですから、わたしたちが福音宣教によってすべての人に届ける終わりの日の宴への招きは、主がご自分のことばと、御からだと御血とをもって養ってくださる聖体の食卓への招きに、本来的に結ばれています。ベネディクト十六世が教えていたとおりです。「感謝の祭儀が行われるごとに、終わりの日の神の民の集いが秘跡の形で実現します。わたしたちにとって聖体の宴は最後の宴の実際先取りです。この最後の宴は、預言者たちによって前もって語られ（イザヤ 25・6-9 参照）、新約の中では、諸聖人の交わりの喜びのうちに祝われる、『小羊の婚礼』（黙示録 19・7-9）と述べられます」（使徒的勧告『愛の秘跡』31）。

そのためわたしたちは皆、感謝の祭儀をそのあらゆる面で、なかでも終末的な面と宣教的な面において、いっそう熱心に味わうよう求められています。この点について、次のことを今一度確認したいと思います。「宣教のわざへと導かれることなしに、聖体の食卓に近づくことはできません。宣教は、神のみ心によって計画され、すべての人に達することを目指すからです」（同 84）。コロナ禍を経て、多くの地方教会が見事に復活させている感謝の祭儀は、信者一人ひとりに宣教の心をかき立てるための、いっそうの基盤となるでしょう。ミサのたびに、さらなる信仰と熱い心をもって応唱すべきです。「主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで」。

こうした展望を踏まえ、2025年の聖年を準備する祈りの年である今年、皆さんに呼びかけたいのは、教会の福音宣教のために、何よりもミサに参加すること、そして熱心に祈ることです。教会は救い主のことばに従順で、感謝の祭儀や典礼祭儀のたびに、「み国が来ますように」と祈る「主の祈り」を神にささげ続けています。このように、日々の祈りと、とりわけ感謝の祭儀が、わたしたちを神のうちでの終わることのないいのちへと、神がすべての子らに用意してくださる婚宴へと向かう旅路を歩む、希望の巡礼者、希望の宣教者にしてくれるのです。

3. 「だれでも」——キリストの弟子たちの世界への宣教と、ひたすらシノドス的で宣教的な教会

最後となる三つ目の考察は、王の招待を受けた人たちについてです。「だれでも」——。はっきり申し上げたとおりです。「この『だれでも』こそが宣教の核心です。だれ一人、例外はいません。だれでもです。ですからわたしたちの宣教はことごとく、すべての人をご自分へと引き寄せるために、キリストのみ心から生じるものなのです」（教皇フランシスコ「教皇庁宣教事業総会参加者へのあいさつ（2023年6月3日）」）。分断や紛争にさいなまれた世界の中で、今日もなお、キリストの福音は柔和で強い声となり、人々が出会い、互いを兄弟姉妹として認め、多様性の調和を喜ぶよう招いています。神がお望みになるのは、「すべての人々が救われて真理を知るようになること」（一テモテ 2・4）です。ですから、宣教活動においてわたしたちは、すべての人に福音を告げるために遣わされた者であることを決して忘れてはなりません。そしてそれは、「新たな義務を人に課するようなものではなく、喜びを分かち合い、美しい地平を示し、だれもが望む宴に招くようなもの」（使徒的勧告『福

音の喜び』14)として告げられなければなりません。

キリストの宣教する弟子たちはいつも、その社会的・道徳的状况を問うことなく、すべての人を案じる心を忘れません。婚宴のたとえば、王の命令に従う家来たちは「見かけた人は善人も悪人も皆」(マタイ 22・10) 集めたと伝えています。さらには、「貧しい人、からだの不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人」(ルカ 14・21)、つまり、社会の中で取り残され、疎外された人たちこそが王の賓客なのです。このように、神が用意された御子の婚宴は、永遠にすべての人に開かれています。わたしたち一人ひとりに対する神の愛は大きく、条件などないからです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを得るためである」(ヨハネ 3・16)。変えてくださり救ってくださる神の恵みにあずかるよう、だれもが、あらゆる人が招かれています。わたしたちがすべきことはただ、神からのこの寛大なたまものに「はい」と答え、それを受け入れ、それによって変容されるがままになって、「婚礼の礼服」をまとうように、それに身を包むことです(マタイ 22・12 参照)。

すべての人への宣教には、皆で取り組む必要があります。ですから、福音に仕える、ひたすらシノドス的で宣教的な教会を目指す道を歩み続けなければなりません。シノダリティはそれ自体宣教的であり、逆もまたしかりで、宣教は必ずシノドス的です。だからこそ今日、緊密な宣教協力は、普遍教会においても、また部分教会においても、より緊急かつ必須なものとなっています。第二バチカン公会議と前任の教皇たちに倣い、世界中の全教区に対して、教皇庁宣教事業への協力を要請します。同事業は、「カトリック信者にすでに幼少のころから、真に普遍的、宣教的な精神を浸透させるための手段であり、あるいはまた、全宣教地の益のため、それぞれの必要に応じて、援助のための募金活動を効率よく行うための手段」(『教会の宣教活動に関する教令』38)として主要な部分を担っています。こうした理由から、すべての地方教会で行われる世界宣教の日の献金は全額、世界連帯基金に充当され、教皇庁信仰弘布事業により教皇の名において、教会のあらゆる宣教事業の必要のために分配されます。主がわたしたちを導き、よりシノドス的で宣教に励む教会となるために助けてくださるよう、祈り求めましょう(教皇フランシスコ「シノドス通常総会閉会ミサ説教(2023年10月29日)」参照)。

最後に、マリアに目を向けましょう。ガリラヤにあるカナでの、まさしく婚宴の場で、イエスに最初の奇跡を願い出たかたです(ヨハネ 2・1-12 参照)。主は花婿花嫁とすべての招待客に、たっぷりの新しいぶどう酒を与えましたが、これは、終わりの日に神がすべての人のために用意しておられる婚宴を予感させるしるしです。今日もまた、キリストの弟子たちの福音宣教のために、マリアの母としての執り成しを祈り願いましょう。聖母の喜びとすぐに動かれる姿勢で、優しさや愛情の力をもって(教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』288 参照)、出向いて、すべての人に救い主である王の招きを届けましょう。聖マリア、福音宣教の星よ、わたしたちのために祈ってください。

ローマ、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて
2024年1月25日 聖パウロの回心の祝日 フランシスコ

(教皇庁宣教事業 J-MISSIO hpより)



おしらせ



1 待降節黙想会について

待降節黙想会の指導司祭は、長崎県の愛宕教会の主任司祭であり、カリタスジャパン秘書の瀬戸高志神父様（レデンプトール会）です。とても若々しく、元気に満ち、魅力的な神父様で、素晴らしい黙想会になると思います。是非、ご参加をお願いいたします。

日時：2024年12月7日（土）10時～12時

会場：甲府カトリック教会 聖堂

指導司祭：カリタスジャパン 秘書司祭 瀬戸高志神父様（レデンプトール会）

対象者：甲府教会信徒、他教会信徒、洗礼志願者

申込方法 甲府教会信徒及び洗礼志願者 センター掲示板の申込用紙にご記名ください。

他教会信徒 甲府教会委員長（相河）へ メール aik00578223@gmail.com

携帯 090-6191-5157

プログラム

主任司祭挨拶と指導司祭の紹介（10時～10時5分） 芹沢神父様

ご講話（10時5分～11時30分） 瀬戸神父様

赦しの秘跡（11時30分～12時） 芹沢神父様（司祭館） 瀬戸神父様（告解部屋）

昼食もしくは帰宅

その他 午後から地域福祉委員会研修会として「TOGETHER WE」取り組み状況と今後の展開を開催します。お時間の許す方は、是非、ご参加ください。



2 ^{きてん} 帰天のおしらせ

ローザ デリマ 桜林 睦子さん（さくらばやし むつこさん）90才（西ブロック）
10月26日（土）帰天されました。11月1日（金）南口ロイヤルシティホールにて葬
儀ミサが行われました。

マリア 芦澤 さつき さん（あしざわ さつきさん）98才（中央ブロック）
11月10日（日）帰天されました。11月13日（水）カトリック甲府教会にて、通夜
11月14日（木）カトリック甲府教会葬儀ミサが行われました。桜林様と芦澤様の在り
し日を忍び、おふたりの永遠の安息をお祈り致しましょう。

3 ^{こうたんさい} 降誕祭のミサについて

12月24日（火）	主の降誕 夜半のミサ	19：00 ～	聖堂・講堂・ホール
12月25日（水）	主の降誕	10：30 ～	聖堂
12月29日（日）	聖家族	10：30 ～	聖堂・講堂
2025年1月1日（水）	神の母聖マリア	10：30 ～	聖堂・講堂

- ・上記は、いずれも参加制限は設けず行います。
- ・インフルエンザ等感染症の発生状況によって、マスク着用をお願いする可能性があります。

4 ^{かみ ははせい} 神の母聖マリアの祭日 ^{さいじつ} 1月1日（水）のミサについて

10：30～ 聖堂とサンタルチア講堂 ※ミサ後、茶話会がございます。

5 ^{ねん ど かつどうほうこく} 2024年度活動報告 ^{ねん ど かつどうけいかく} 2025年度活動計画

各常任委員会・各会・ブロック・外国籍グループの代表の方々の活動報告・活動計画書を
2025年1月5日（日）までに、提出をお願いいたします。

(josemaria_0908@yahoo.co.jp) 事務局今井まで

6 ^{ちいきふくしいんかい} 地域福祉委員会

11月10日フリーマーケットが行われました。売上金の中から経費を引き11月18日
カリタスジャパン「能登災害支援募金」へ191,702円送金いたしました。
予定通りフリーマーケットを実施できる皆様にとくさんのお祈りをいただきほん
とにありがとうございました。

ちいきふくしいいんかいけんしゅうかい
地域福祉委員会研修会

「TOGETHER WE」

目的：地球や弱い立場に追いやられた人々の叫びに耳を傾けながら 相互配慮をベースとしたケアの共同体（愛の実践共同体）を促進し ともに ケアの文化を地域の善意の人々とともに構築するための祈りと分かち合い

日時：2024年12月7日（土） 13時～17時

会場：甲府カトリック教会 サンタルチア講堂他

指導司祭：カリタスジャパン 秘書司祭 瀬戸 高志神父様（レゼンプートル会）

対象者：地域の福祉団体の関係者、他教会信徒、甲府教会信徒、甲府教会地域福祉委員会委員他

参加申込期限及び方法：(1)期限 2024年11月30日（土）(2)申込方法

①甲府教会信徒 センター掲示版の申込み用紙にご記名ください。

②他教会信徒及び地域福祉団体関係者等一般市民

地域福祉委員会事務局（木村）メール kimura.tema@dream.com

携帯 090-8031-9608

7 せいしょうねんいくせいいいんかい
青少年育成委員会

教会学校・中高生会のクリスマス会について

教会学校・中高生会のクリスマス会 を12月15日（日）ミサ後 サンタルチア講堂にて行います。12月1日と8日に練習・準備をしますので、よろしくおねがいします。12月15日のクリスマス会には、信徒の皆様も、お越してください。

令和7年度 初聖体クラスについて

令和7年に小学4年生以上になる洗礼を受けたお子さんで初聖体を受けることを希望される方は12月31日（日）までに青少年育成委員会各委員までお申し込みください。

担当：池田（090-4223-6727）

かくいいんかい にってい
各委員会の日程

じよせいかい 女性会	12月1日（日）	11:30 ～	ドミニコの部屋
きすなの会 かい		お休み	
てんれいいんかい 典禮委員会	12月14日（土）	9:00 ～	センターホール
ちいきふくしいいんかい 地域福祉委員会	12月15日（日）	12:00 ～	センターホール
こうほういいんかい 広報委員会	12月29日（金）	11:30 ～	センターホール
せいかたい 聖歌隊	12月1日・15日	9:00 ～	聖堂

やまなしライフサポートより

ニュースレター発行

2024年度前半期の活動をまとめたニュースレター24号を発行しました。今回の特集は「炊き出し再開後1年」です。

カトリックセンター入口右側の棚に入れてありますのでご自由にお取りください。

年末交流食事会

生活に困っている人々と同じ食を囲んで年末のひと時を楽しく過ごします。

12月19日(木) 調理12時～ 食事会14時～ ゲスト：山梨英和中学のマンドリン部
・調理ボランティアさんを募集します。希望者はマスク、三角巾、エプロンを準備し、11時50分にカトリックセンターに集合してください。

・ビンゴゲームの景品を募集します。中元や歳暮で残っている食品がありましたらご寄付をお願いします。

夜間見守りパトロール

甲府駅周辺や公園を巡回し、路上生活者の見守りや発見を行います。

12月21日(土) 22時～23時30分。

ご協力いただける方は21時50分にカトリックセンターにご集合ください。

※お問い合わせ先 080-5501-8191 芦沢

せんきょうちしょうめいそくしん ひ けんきん 宣教地召命促進の日・献金 (12月1日)

キリストを知らない人に救いの福音を伝えることは、キリスト者一人ひとりに課せられた使命であり、神からの呼びかけにこたえること(召命)です。それゆえ、宣教地である日本において、すべての信徒がその使命を果たせるよう、また宣教に従事する司祭・修道者がよりいっそう増えるよう祈ることは、とても大切なことです。

この日、わたしたちは、世界中の宣教地における召命促進のために祈り、犠牲をささげます。当日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭養成のための援助金



としておられます。

12月 1日 (日)	待降節第1主日	10:30	ミサ
		14:00	ベトナム語ミサ (tiếng Việt)



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



12月 7日（土）	たいこうせつちもくそうかい 待降節黙想会	10:00 ~ 12:00	
12月 8日（日）	待降節第2主日	10:30	ミサ
		14:00	ポルトガル語 (Português)
12月 15日（日）	待降節第3主日	10:30	ミサ
		12:30	韓国語ミサ (한글)
12月 22日（日）	待降節第4主日	10:30	ミサ
		14:00	英語ミサ (English)
12月 24日（火）	主の降誕 (夜半ミサ)	19:00	ミサ
12月 25日（水）	主の降誕	10:30	ミサ
12月 29日（日）	聖家族	10:30	ミサ
2025			
1月 1日（水）	神の母聖マリア	10:30	ミサ
1月 5日（日）	主の公現	10:30	ミサ
		14:00	ベトナム語ミサ (tiếng Việt)

※2025年1月3日の初金のミサは、ありません。

月定献金振込先（教会維持費）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

墓地・納骨堂管理費振込先（毎年1月～5月中旬に）

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 1402890

どちらも宛名は

（宗）カトリック横浜司教区甲府カトリック教会

